

# 研修医歓迎レセプション： めっちゃ盛り上がったシンポジウムのご報告



理事 玉城 研太郎



## 第14回沖縄県医師会研修医歓迎レセプション

日時：令和4年4月8日（金）18:30～20:30  
場所：ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城

### 会次第

司会：沖縄県医師会常任理事 田名 毅

1. 挨拶
 

	沖縄県医師会会長 安里 哲好	知 康裕
	沖縄県知事 玉城 康裕	
  2. 沖縄県医師会医学会賞  
（研修医部門）表彰式
 

	沖縄県医師会医学会会長 砂川 博司	
--	-------------------	--
  3. オリエンテーション  
「臨床研修と医師会」
 

	沖縄県医師会常任理事 大屋 祐輔	
	「医療事故と医事紛争」	
	沖縄県医師会常任理事 稲田 隆司	
  4. シンポジウム
    - ・イントロダクション
    - ・グループワーク
      - テーマ1「初期研修で大切なことは？」
      - テーマ2「この2年間でやってみたいことは？」
    - ・シンポジストからの発表
 

	琉球大学病院第二内科 中島 知	知 裕之
	沖縄県立中部病院内科 鶴海 裕之	
	沖縄県立北部病院救急科 玉城 仁巳	
    - ・質疑応答
- 座長 沖縄県医師会理事 玉城研太郎  
 ハワイー 沖縄医学教育フェローシップ実行委員 武村 克哉

研修医歓迎レセプションの目玉、会場の研修医、指導医の皆様を交えたシンポジウムは大いに盛り上がりました。企画の段階から、また当日の司会進行でもご尽力頂きました、ハワイー沖縄医学教育フェローシップ実行委員の武村克哉先生には心より感謝を申し上げます。武村先生のイントロダクションの後に、各テーブルごとにグループワークを行いました。各テーブルには研修医7～8人と指導医2人程度が座り、テーマ1「初期研修で大切なことは？」、テーマ2「この2年間でやってみたいことは？」について討議を行いました。“先輩方から一生懸命勉強したい”、“患者さんに寄り添うことができる医師になりたい”などの大変フレッシュな研修医の皆様の声が聞くことができました。

グループワークの後は、先輩若手医師からのプレゼンが行われました。

第一席目は沖縄県立中部病院内科レジデントの鶴海裕之先生より「Welcome to hospital」と題し講演を頂きました。まず先生の自己紹介と大学時代の南米を放浪したエピソードなどをお

話頂いたのちに、研修医のいろはのお話を頂きました。まずは医師である前に社会人としての心得として、周りの皆様と連携することが重要(チームプレイ)、しっかりと大きな声でお話をし、重要なのはしっかりと挨拶をすること。そして患者さんをしっかりと診る、ベッドサイドに駆け付けることが重要である。そして研修医一年目は現場になれることだけでも一苦労なので、気負わずひとつひとつこなして行って下さいね、とエールを頂きました。

続いて、沖縄県立北部病院救急科の玉城仁巳先生より、「初期研修で大切なことは？」と題し講演を頂いております。玉城先生からは、まず“フットワークを軽く”ということで、新患診察を積極的に、わからない時には上級医にコンサルトを、そして病棟コールには病棟に赴いてしっかりと患者さんを診ること、「必ず最初は自分が見る！コールは全て見に行く！」こんな気持ちで向き合ってください、とのエールがありました。そしてコミュニケーションを大切にすること、上級医や来年入ってくる後輩たちとのコミュニケーションや看護師さん等々のパラメディカルの皆様とのコミュニケーション、そして何より患者さんやご家族とのコミュニケーションを大切にしましょう、というお話がありました。玉城先生のお話もまた熱く、研修医の皆様を打つご講演でした。

最後は琉球大学第二内科の中島知先生より「成長に必要なもの」と題してご講演を賜りました。中島先生のご講演は少し毛色が異なり、ご自身が経験された挫折を通して、研修医の皆様へエールを送るといった内容でした。本土の大学病院で研修中にパワハラにも近い状況で挫折の真ただ中にいた際に、グラム染色と出会い、病院中の検体を染めまくったことから研修医人生が一転、“染太郎”のあだ名がつくほどに院内のプレゼンスを高めることができたこと。そして中部病院で後期研修に励み、中部病院は「人格否定をしたり、頑張る人を貶めようとする人はいなかった」と、大変恵まれた研修環境であり、大変充実した後期研修を送れたことをお話頂きました。最後に研修医の皆様へのエールとして、“「これならできるかも」を見つけることが大事”、“その「きっかけ・気づき」は今の場所には降ってこない”、“何かを始めてみるのが自分をより良い自分に変える”と力強くメッセージを頂きました。

お三方のご講演の後に会場の皆様との意見交換を行いました。大変充実したシンポジウムとなりました。沖縄県で学ばれる研修医の皆様が、まずはご自身の体を大切にして、充実した研修医生活となりますことを心より祈念しております。



挨拶をする安里哲好会長



挨拶をする池田副知事



表彰式の進行をする砂川博司医学会長



講演する大屋祐輔常任理事



講演する稲田隆司常任理事

## 会場の様子



## 印象記

### 3年ぶりに開催した 沖縄県医師会研修医歓迎レセプション報告記

常任理事 田名 毅



コロナ禍は社会全体に大きな影響をもたらしているが、特に若い世代への影響は甚大なものがある。当会が開催してきた表題のレセプションも大人数を集めること、飲食を伴うことがクラスター発生につながるものが危惧されて2年間開催することが出来なかった。沖縄における初期研修を選択し、医療の現場にやる気をもって加わる研修医の先生方に「感染対策を十分に行った上で、我々の歓迎の意を伝えることが出来ないか」と、今回の開催の是非に関して理事会の中で多くの議論があった。そして、飲食は伴わずとも、指導医、若手先輩医師が彼らに頑張っていて欲しいというメッセージを伝える場を作るというコンセプトで、今回のレセプションが企画された。

当日の参加者には事前に抗原キットが配布され、会場入りする前に陰性であることを確認してもらった。臨床研修病院のうち4病院に関しては院内の感染対策の方針で参加が見合された。

以下に会次第に沿ってその内容を紹介する。

1. 安里哲好会長から研修歓迎の激励の挨拶、また玉城康裕知事の挨拶を池田竹州副知事が代読され会が開始された。
2. 続いて沖縄県医師会医学会賞（研修医部門）の表彰式が砂川博司医学会長の進行で行われた。これからの研修医には多いに刺激になったと感じた時間であった。
3. そして、大屋祐輔常任理事から「臨床研修と医師会」、稲田隆司常任理事から「医療事故と医事紛争」に関して、沖縄県医師会の理事会を代表してオリエンテーションの講演が行われた。医師会がどのように研修医に関わり、どのような社会的役割があるかについて理解を深める時間であった。
4. シンポジウムでは若手先輩医師からこれから医療に加わる研修医の先生方に臨床研修をはじめめるにあたって是非伝えたいメッセージを話してもらった後に、直接指導医と話が出来るテーブルディスカッションを行った。各テーブル7～8人の配置で、一人ひとりの間にアクリル板を設置して行われた（シンポジウムの詳細は玉城研太郎理事の報告を参照）。
5. 最後に受付でお弁当を配布し終了した。

司会進行し全体を通して感じたのは、研修医の先生方の「これから頑張るぞ」という意気込みと、それを温かい目で応援している指導医、若手先輩医師の思いが参加者皆に伝わる時間が過ぎたということであった。開催まで多くの議論があったが様々な工夫をすることで3年ぶりに開催することが出来て本当に良かったというのが、安里会長はじめ参加した理事者から得られた終了後の感想であった。